

ファーマーズ & キッズ フェスタ 2012 開催報告

消費者・子供たちと農業を繋ぐ未来への懸け橋となる事をテーマに「第3回ファーマーズ & キッズ フェスタ 2012」が 11/10(土)～11(日)に東京・日比谷公園で開催されました。

主催はファーマーズ & キッズ フェスタ実行委員会（構成団体：J-PAO 並びに運営会員の日本農業法人協会、日本ブランド農業事業協同組合）。また、多くの J-PAO 会員に協賛やブース出展などのご協力をいただきました。

開催初日（10日）は晴天に恵まれ家族連れを中心に約 37,500 人が、2 日目（11日）はあいにくの曇り空で、少し肌寒い中にも関わらず約 26,500 人もの方々にご来場いただきました。各ブースでは全国各地の農産物や加工品の販売のみならず、趣向を凝らした各種ワークショップや食育の取組み等が行われ、いずれも大盛況でした。会場内には絶えず歓声が響き渡り、来場者の皆様の笑顔、特に子ども達の輝くような笑顔はとても印象的でした。

ご協力いただいた会員の皆様には、あらためてお礼申し上げます。今後、より良いイベントに成長させるべく、努力しますので、引き続きご支援ご協力をお願いします。



写真：会場内の様子



写真：キッズミニ農園・農機体験



写真：出展ブースの様子



写真：ミニ動物園

第5回トップマネジメントセミナーの日程決定

J-PAO 主催で例年開催しているトップマネジメントセミナー（第5回）の日程と骨子が決まりました。

日時：平成25年3月8日(金) 14:00～

場所：日比谷図書文化館地下コンベンションホール他
(東京都千代田区日比谷公園)

内容：

第1部 講演

テーマ：「皇室と農業とのかかわり（仮称）」

講師：羽毛田 信吾氏(元宮内庁長官、J-PAO 特別会員)

第2部 パネルディスカッション

パネラー：若手農業者4名、羽毛田信吾氏

コーディネーター：高木勇樹(J-PAO 理事長)

第3部：懇親会

詳細につきましては、12月下旬に連絡します。

専門部会の動き (11月分)

【輸出】

今冬に向けて、イチゴの輸出にトライすることとし、オファーの詳細を詰めていくことにしました。また、この部会の到達点である「輸出を1回は成功させる」に向けて、これまでの取り組みを踏まえ意見交換を行いました。その結果、これまでとは違うチャンネルでの可能性を探るため、別の輸出をおこなっている企業とコンタクトをとることになりました。

【人材育成①】

運営会員である㈱あぐりーん吉村社長を交え、「J-PAO 研修農場制度」の周知策について意見交換を行いました。

㈱あぐりーんの農業求人サイトへのバナー広告やJ-PAO ホームページ構成など、同制度がより具体的、視覚的に理解できる見せ方が必要との意見が出され、引き続き検討を行うこととしました。

【人材育成②】

募集中の12/2開催のJ-PAO主催セミナーの集客状況の確認と共に、今後の方策(集客、当日の資料・運営)の検討を行いました。

また、実施が決定した第5回J-PAOトップマネジメントセミナーについて、具体的な集客のための参加案内チラシの内容検討や、実施に向けての今後のスケジュールの検討を行いました。

【東北農業復興プラン検討部会】

南相馬市役所との現地での意見交換では、除染対策などに追われている現状に対し、新しい前向きな提案や大規模経営研究会への支援に感謝する、との話があり、引き続き情報交換と意見交換を行っていくこととなりました。

これを受けて、タマネギを南相馬の農業復興の中心作物とした事業プランについて、検討を行いました。

農業経営アドバイザー研修・試験開催

J-PAOは11/12(月)～11/16(金)に第16回農業経営アドバイザー研修・試験を開催し、358名が参加しました(於:クロスエブ府中(東京都

府中市))。

研修では、農業簿記・税務、農業経営診断、農業労務管理、農地、農業マーケティング、農業問題を行い、11/16には試験を行いました。

この試験に合格した方は、1月17日(木)に面接試験を行い、それに合格すると、「日本政策金融公庫 農業経営アドバイザー試験合格者」の称が付与されます。

主な活動 (11/1～11/30)

11/1、6～7 宮城県農業法人等支援事業(小林運営会員、近藤運営会員、松田運営会員)

11/6 第64回企画運営委員会

11/6 日本公庫高松支店顧客交流会(食料マネジメントサービス 福田代表取締役)

11/10～11 「第3回ファーマーズ&キッズフェスタ2012」

11/12～16 第16回農業経営アドバイザー研修・試験

11/13 とちぎ農業ビジネススクール(農業経営支援センター)

11/13 上越市錦糸町マルシェ出展結果報告会(後藤)

11/14 日本公庫名古屋支店顧客交流会(ぐるなび 溝上取締役)

11/16 大分農業ビジネススクール(丸田運営会員、西田運営会員、藤野運営会員、農業経営支援センター、後藤)

11/20 山梨中央銀行アグリビジネススクール(ぐるなび 関口氏)

11/21 九州・沖縄地銀東京事務所長会(後藤、岩下)

11/22 浜松市農業参入セミナー(後藤)

農業支援関連情報を探しています

J-PAOは、会員向けのサービス拡充や、会員向け交流を図るため、会報(J-PAO Press)およびホームページへ掲載可能な次の情報を募集しています。ご提供頂ける情報がありましたら、事務局・高田までご連絡ください。

- 各会員が農業者向けに行っているサポート活動の事例(プレスリリース資料等)
- J-PAO会員向けにお知らせしたい自社製品・サービスの情報
- その他農業分野における新たな取り組みに関する話題 等

往復書簡

今回は、降矢 和敏氏（福島県、降矢農園）と当機構理事長の高木勇樹との往復書簡 2 回目です。

拝啓 高木勇樹様

十一月になり、すっかり秋になりました。夕暮れも早くなり、冬がもうそこまで来ているように感じられる次第です。

福島県では十月に米の収穫を終え、全量検査が日々行われています。場所によっては、検査が追い付かず、検査結果に問題がなくても、検査を終えるだけで年末を迎えてしまいそうなどころもあるようです。米も新米として売れる時期があるわけです。このタイミングを逸してしまうのは農業経営者として非常に痛手だと感じております。

また、検査の過程で基準値を超えるものも見つかり報道されているところでもあります。これはきちんと情報開示し、透明性があることの証しであると考えています。そのうえで、基準値を超えるものがきちんと流通から外れ、安全なものが消費者の手に届いていると消費者に認識されるよう、生産者や流通業者が努力をしなければいけないと再認識しております。

BSEの時は、全国で共通の基準で行われ、安心を取り戻すための時間もかなりかかりました。それに対し、今回米に限らず農産物は福島県産が検査の中心となっています。これを前向きにアピールし、福島県産はきちんと検査されたものだけが流通され安全である。つまり「福島県産＝安全」と認識してもらうことが現時点で最も現実的な対処法であり、中長期的な視点で福島県産農産物の再生そして農産物の最先端を築く鍵になるでしょう。そのためにも、この厳しい時期を乗り越えていかなければなら

りません。

ぜひ、消費者に福島の「安全」な農産物を適正価格もしくは「安全が実証されている」という付加価値で今まで以上の価格で購入してほしいと感じます。

クライシスという言葉は「危機」ですが、「転機」という意味もあります。福島農産物は危機を迎えているだけではなく、転機を迎えているのだと前向きに進んでいきたいです。

平成二十四年十一月吉日

敬具

降矢 和敏（ふるや かずとし）

一九七四年 福島県郡山市に生まれる

一九九八年 札幌大学経営学部卒業後、経理学校講師、

会計事務所勤務を経て

二〇〇八年 有限会社降矢農園にて就農

カイワレ大根、サンチュ、豆苗などを水耕栽培にて通年出荷。本年より夏イチゴに挑戦中



拝復 降矢 和敏様

十一月も半ばを過ぎ、標高四百メートルほどの私のふるさと群馬県松井田町でも、先日帰ったら紅葉がかなり進んでいました。

お手紙を拝見し、月日の経過の中で、ひとつひとつ自信を取り戻しつつあることを感じ、大変嬉しく思いました。

検査の対象にされている福島県産の「安全」は、科学的に安全でないと言われるものはきちんと情報開示することで、その「安全」が信頼につながると思っております。

私もそのとおりだと思います。それを繰り返すことで、安心感が生まれていくのだと思います。

このことが前回申し上げたように、福島県の「安全」な農産物を購入することが、福島再生の一助になるとの多くの国民の思いを、確かな行動につなげていくことになると思います。

福島の皆さんのそのような地道な努力が実を結びつつあるのでしょうか。

最近の新聞等の報道によると、福島県産農産物の売れ行きと価格が戻りつつあるとのことですが、「我が意を得たり」の思いです。

皆さんの努力そのものが「付加価値」と評価され、今まで以上の価格を実現するには至っていないようですが、努力は必ず報われるときが来ると確信しております。

貴兄の夏イチゴ挑戦が成功することをお祈りするとともに、「継続は力」「至誠通天」の言葉をお贈りします。

暦の上では十一月七日が立冬、十一月二十二日は小雪です。また、十一月十八日には東京で木枯らし一号が吹いたとのことですが、本格的な冬到来も間近がです。

くれぐれもご健康に留意の上、ご活躍されますようお願いいたします。

敬具

平成二十四年十一月吉日

高木 勇樹（たかぎ ゆうき）

一九四三年 群馬県生まれ
一九六六年 東京大学法学部卒業後農林省入省。食品流通局砂糖類課長、大臣官房企画室長などを経て、食糧庁管理部長、畜産局長、大臣官房長、食糧庁長官など歴任。

一九九八年 農林水産事務次官、二〇〇一年退官

二〇〇二年 農林中金総合研究所理事長

二〇〇三年 農林漁業金融公庫総裁、二〇〇八年同公庫退任

二〇〇七年 NPO法人日本プロ農業総合支援機構副理事長

現在、NPO法人日本プロ農業総合支援機構理事長などの立場から、わが国農業・農村の活性化、食の問題の解決に向けた活動に尽力。

